

平成28年 3月31日

平成27年度 東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

※この報告書はHPなどで公表されます。

1. プロジェクト名
中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理
2. 申請研究者
(氏名) 張馨元 (所属・役職) 助教
3. 研究期間
平成26年4月1日から平成28年3月31日(2年間)
4. プロジェクトの趣旨、全体計画(400字程度)

本プロジェクトは中国各省の地方誌(主に商業誌、糧食誌、経貿誌)及び国有企業(主に中糧集団、食糧主産地の各省の国有食糧企業)の企業誌を主たる材料とし、2000年代までの中国食糧貿易に関する資料の収集と整理を目的としている。

中国の食糧貿易の特徴は、①輸出と輸入の両方において規模が大きい、②年間数量の変動が大きい、の2点にまとめることができる。これまでの統計資料に基づいた学術研究は、主要作物別の数量から食糧貿易の趨勢を分析するものがほとんどである。食糧貿易の変動を説明するのに不可欠である国内の食糧流通構造や、貿易担い手である国有食糧貿易企業の役割に関する研究は、中国の国内外を問わず、空白に近い状態である。そこで、本プロジェクトは地方誌と企業誌に掲載している関連資料を整理し、資料集を公開することによって、食糧貿易の全貌をより明確にするための研究材料を日本及び海外の研究者に提供したい。

5. 今年度の研究実施状況(400字程度)

平成27年度の活動は、当初の計画に基づき、資料の整理と発表に重点を置いた。具体的には、アシスタントを1名雇用し、関連資料の整理と分析を行った。平成28年1月末時点では、申請者とアシスタントの2人体制で、一貫性と信憑性がより高いデータの選別しつつ、データ集の作成を行っている。資料収集に関しては、平成27年7-9月に申請者は必要な統計資料を中国から調達し、本プロジェクトの資料収集作業を終えた。

また、平成27年12月12日に東洋学研究情報センター国際シンポジウム「中国の食糧流通と貿易」を開催し、本プロジェクトの一部成果を公開した。同シンポジウムは、中国から専門家4名、国内他大学から専門家3名を招聘し、参加者である国内外の研究者約30名とともに、中国の食糧流通と貿易について議論を交わした。

6. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

1)本プロジェクトの成果を国内外の学者に広く活用してもらえよう、2015年12月12日に東洋文化研究所にて国際シンポジウム『中国の食糧流通と貿易』を開催した。シンポジウムの第1部では、計画経済期から現在までの中国における食糧流通と貿易の情勢について、張馨元(東洋文化研究所)の他、松村史穂(北海道大学)、胡小平(西南財経大学)、司偉(中国農業大学)の各氏がそれぞれ報告を行った。第2部では、池上彰英(明治大学)と范丹(西南財経大学)が第1部の4報告に対してそれぞれコメントを与えたあと、参加者全員が食糧流通システムの変化、1970年代の人口変化と食糧需給、2013年以降のトウモロコシ在庫過剰などの問題について質問や意見が交わされた。

2)平成28年3月末に英文データ集 China Grain Assembly1950-2014, 現代中国研究拠点研究シリーズNo.16 (科研費プロジェクト若手研究B【代表者:張馨元】との共同成果)を刊行する。